

ユジュ 2010年 冬

平成21年12月28日発行（第4号）

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。YUJを手を取った方とお寺が良い縁で結ばれますように。

日露戦争の英雄

乃木希典が金倉寺で

過ごした三年間

金倉寺に残る乃木將軍のエピソードについて、金倉寺中興十六世住職村上法照師にお話をいただきました。

——乃木將軍は明治三十一年から三年間、金倉寺に寓居きょされていたということですが、どうして金倉寺を選ばれたのでしょうか。

もともとは三ヶ所ほど候補地があったんです。乃木さんが善通寺第十一師団と丸亀歩兵第十二連隊の両方の監督をせんといかんとい

乃木 希典

う事情があつて、立地の面からもこの金倉寺になつたようです。

お寺の方では「朝日を拝みながら向かい夕日を背にして帰ってきた」という話が残つておつて、想定すると、朝日が昇る方向は東やから、始めに丸亀の十二連隊に行つてその後善通寺

十一師団に向いお寺に帰つてきたと、こう想像されるわけです。

——金倉寺において乃木將軍の生活とはどういったものだったのでしょうか。

乃木さんが過ごされた部屋は現在もお寺に残つとるわけですが、物置、寢室、書齋兼応接室、それと食堂の四室を利用され、鎌次郎かまじろうさんという馬番の方との二人住まいでした。師団から帰つても常に軍服で過ごし、来客にも軍服で接したそうです。時にはお遍路お遍路さんにも乃木さん自ら軍服で玄関まで出向き、納経のうきょうに応じたそうです（笑）

乃木さんは当時でも大変な人やったので、お寺の方では特別な食事を用意するという段取りをしとつたそうですが、乃木さんの方から「お寺の食事で結構です」と断つたそうです。当時のお寺は女人禁制にょにんきんせいで女手おんなでのない時代やったから、想像しても分かるように大したものはお出せんかつたんです。しかし乃木さんは質素厳格という考えをもつた人やったので、喜んで食事をとられたということです。

また金倉寺の近くの人で、乃木さんには来客も多いやらうと見込んで旅館を開業した人がおつたんです。



乃木希典像

陵西館りょうせいかんというね、それで一儲けしようとしたんでしょな。だけど乃木さんは派手な交際も無い人で、旅館の方は目論見もくろみが外れてしもうたみたいですよ(笑)

一方で第十一師団の語り草になった話で次のようなものがあります。明治三十二年一月五日、初めて善通寺で迎える新春宴こんひらを琴平さん山頂の大麻山おおさやまで迎えようということになったんです。しかし新春宴にも

関わらず乃木さんが「わしの弁当はいつものように握飯にぎわめじゃ」と言う話が伝わり、みんな握飯にせざるをえない状況になったんです。さて正午近くになつてやつとの思いで山頂に到着して、誰もが握飯のみとい

夫がやってきて「遅くなりました」とわびるのを乃木さんは「ご苦労だった」と労つて「さあ、酒肴がついた。粗末じゃが遠慮なくおとり下さい。」と。思いが

けないご馳走に一同大いに盛り上がり飲み食いしたという事です。このような粹な計らいをする人でもありません。ちなみにこのご馳走は先程の陵西館に頼んだものやつたそうです。

また近所の子供達にも大変人気があったと聞いています。小さな子供が乃木さんに挨拶をすると挙手の礼で応えたそうです。また乃木さんが師団へ向かう途中、子供達が見つないで通せんぼをしている、けしからんことです。「師団長さん、

——金倉寺と言えば講談にもなりました「妻返しつまがえの松まつ」があります、実際にはどういった経緯きわだがあったのでしょうか。

乃木さんが善通寺第十一師団長に就任した初めての大晦日おほみそかです。昼過ぎから雪も降り回りも薄暗くなった夕方頃、「お頼みいたしました」という婦人の声が聞こえてきたわけです。そこで当時小僧こそうをしていた先々代の俊雄とよおさんが不思議に思

ながらも覗くと、見たことない夫人がいらつしやつた。「どなた様ですか。」と尋ねると婦人は「乃木の妻でございます。静しずが東京から参つたとお取次をお願ひします。」というんです。奥さんの位置から乃木さんの姿は見えるのに変だと思ひ、俊雄さんは「閣下はあちらにおいでです、どうぞ」と乃木將軍の部屋を指して応じると「無断で通るのもいかがかと考えます。どうぞお取次をお願ひしま



乃木將軍墓返しの松

す」という。俊雄さんは軍人の家庭とはこのようなものなのか、と不思議に思ひながら乃木さんの部屋に入り、「閣下、奥様が東京からお見えになりました。」と声をかけたわけです。しかし乃木さんからは何の答

えもなく、じつと俊雄さんの顔を眺めたまま一分過ぎても返事をせんかつたんです。俊雄さんは將軍は耳が遠くて聞こえないのか、と多度津たどつの方にお引きとり願ひしようか。」と説得しようです。そうすると乃木さん

雞足山馬

乃木将軍書(金倉寺山号)

津の「花びし」という旅館う。」と言ったそうです。に戻られたわけですが、それで奥さんは会えること

です。その護摩が大変効いたそうで、お礼にと台湾から持ち帰ってこられた数珠

希典」という書が残ってます。これは金倉寺で乃木さんの銅像を造った時に東郷さんにお願いをして書いていただいたものやそうです。ただこの像は戦時の金属供

りの松の木まで歩を進めて、奥さんがお寺にやつてきたのは夕方頃で、「昨日はその下でもの思いにふけてたのは夕方頃で、失礼しました。お手数です

を下さったんですが、この数珠は現在でもお寺で大切に保管されています。

出で回収され現存しておりません。しかし多くのお寺が梵鐘を取り上げられた中、金倉寺は乃木さんに守って

と。これがいづ頃からか「乃木將軍妻返し」の松」と呼ばれるようになります。現在三代目になりませんが同じ場所

に目録と共にいくつかの品を残していかれました。例えば話の中でも出てきました

村上法照師のお話にあった乃木將軍は一方で厳しく

代目に植えられております。講談やとこまでですが、もちろんこの話には続きがありまして、俊良さんが乃木さんを説得する場面があります。お二人とも碁を嗜

また乃木さんが身につけられていた軍帽、数点の書簡、乃木さんが甥に宛てた辞世の句も残されています。

した。今でも多くの人が乃木將軍に惹かれるのはこの人柄かも知れません。

えられたのはよほどの大事があつてのこと。是非にお会い願えないでしょうか。」と俊良さんは切り出したん

やないでしょうか。その後また二人無言になる。そうこうしているうちに年も明けて日も昇る時分になった頃、乃木さんがポツリ「皆

不眠症に悩んでいた奥さんはお寺に護摩を頼んだそう

かかないんですが、息子さんの進学のこととか言われています。

それから奥さんは一週間ほど滞在されたみたいで、

それと、山門にお寺の山号である「鶏足山」の文字が掲げられておりますが、これは乃木さんに書いていただいた書の複写です。この原本はもちろんお寺で大切に保管しています。書と

また二人無言になる。そうこうしているうちに年も明けて日も昇る時分になった頃、乃木さんがポツリ「皆

不眠症に悩んでいた奥さんはお寺に護摩を頼んだそう

それと、山門にお寺の山号である「鶏足山」の文字が掲げられておりますが、これは乃木さんに書いていただいた書の複写です。この原本はもちろんお寺で大切に保管しています。書と

また二人無言になる。そうこうしているうちに年も明けて日も昇る時分になった頃、乃木さんがポツリ「皆

不眠症に悩んでいた奥さんはお寺に護摩を頼んだそう

それと、山門にお寺の山号である「鶏足山」の文字が掲げられておりますが、これは乃木さんに書いていただいた書の複写です。この原本はもちろんお寺で大切に保管しています。書と

また二人無言になる。そうこうしているうちに年も明けて日も昇る時分になった頃、乃木さんがポツリ「皆

不眠症に悩んでいた奥さんはお寺に護摩を頼んだそう

それと、山門にお寺の山号である「鶏足山」の文字が掲げられておりますが、これは乃木さんに書いていただいた書の複写です。この原本はもちろんお寺で大切に保管しています。書と

また二人無言になる。そうこうしているうちに年も明けて日も昇る時分になった頃、乃木さんがポツリ「皆

不眠症に悩んでいた奥さんはお寺に護摩を頼んだそう

それと、山門にお寺の山号である「鶏足山」の文字が掲げられておりますが、これは乃木さんに書いていただいた書の複写です。この原本はもちろんお寺で大切に保管しています。書と



乃木将軍遺品(金倉寺)

recipi.01

クルミのクレームブリュレ

◎材料 (ココット約7個分)

クルミ…70g

粉末寒天…小さじ1

塩…小さじ 1/3

バニラエッセンス…小さじ 1/4

メープルシュガー…40g

絹ごし豆腐…150g

水…375ml

トッピング用シュガー…適量

◎準備

- ・クルミをローストする
- ・絹ごし豆腐を水切りする
- ・お湯を沸かす

◎つくり方

1. フードプロセッサー(ミキサー)にクルミ、寒天、塩を入れ粉末状にする。
2. 沸かしておいたお湯 100ml を加え、再び1分ほど攪拌する。
3. 残りのお湯を少しずつ加えながら攪拌し、さらに2分攪拌する。
4. 残りの材料を加え、さらに1分攪拌する。
5. 「4」を漉しながら鍋に移して弱火にかけ、ホイッパーでよく混ぜながら5～8分煮詰める。
※沸騰させないように注意する
6. ココットに注ぎ入れ、室温になるまで冷ましてから、冷蔵庫に入れる。
7. 食べる時に、シュガーをふりかけて、バーナーでキャラメル状になるまで焼く。

今回より始めました「TERA DE CAFE (寺でカフェ)」では、お坊さんも食べられちゃう植物性洋菓子をご紹介。第一回はふんわりとろとろのクレームブリュレです。



七ヶ所まいり

前回のYUJで告知して
ましたとおり、金倉寺主催
による七ヶ所まいり巡拝を
二日に分けて行いました。
今回は本堂での告知のみと
いうこともあつてか両日と
も参加者は四名と少なめで
したが、一人の脱落者も出
すことなく無事に満行する
ことができました。

その七ヶ所まいりで訪れ
たお寺の中で今回一番印象
深かったお寺を紹介したい
と思います。そのお寺は前
期の行程で訪れました虚空
蔵寺です。



虚空蔵寺

こちらの縁起によります
と、弘法大師が四国修行中
この地において、虚空蔵持
聞法を修したことに由来

し、虚空蔵寺が建立され
と言われています。しかし
天霧城を取り巻く戦乱に巻
き込まれ全焼、現在のお堂
は近年になって再興された
ものです。しかし戦後しば
らくしてから無住の状態と
なり、現在では村の預かり
となつていようです。

虚空蔵寺は住職さんがい
らっしゃらないためにお堂
は閉ざされていますが、格
子の隙間より正面にご本尊
虚空蔵菩薩像、右脇に弘法
大師像、左脇に十一面観音
像を拜むことができます。
またお堂脇では地藏像、閻
魔像や大師像などが展示さ
れています。

私達が訪れた十月十一日
はたまたま村の秋祭りの日
であつたため、虚空蔵寺近
辺に本部が置かれており、
お茶やお菓子の接待を頂き
ました。しかし何より私達

が嬉しかったのは、普段は
固く閉ざされている虚空蔵
寺のお堂がお祭りの日に
限つて開かれていたことで

す。このようなご縁に恵ま
れて、私達はご本尊さまを
しっかりと拝ませていただ
くことができましたことは、今
回の巡拝一番の思い出とな
りました。

金倉寺では引き続き「金
倉寺七ヶ所まいり」を開催
したいと思ひます。今回も
全行程を前期・後期の二行
程に分けて、約十五キロの
巡拝となります。両日の参
加はもちろん、一行程だけ
の参加でも構いません。皆
様の参加をお待ちしており
ます。

二月十三日(土)
八時半〜十六時頃
三月二十一日(日)
◎七ヶ所まいり(後期)
八時半〜十六時頃
お問い合わせは金倉寺本堂
または電話(〇八七七ー
六二一〇八四五)川端まで

金倉寺文庫

冬も深まり毎日寒い日が
続いてますね。しかも今年
は新型インフルが流行り、
屋外に出るのはちよつと:
とコタツに入つてゆつくり
とYUJを読んでいる方も
多いのではないのでしょうか。
YUJを読んでもう少し詳
しく内容を知りたいと思つ
て下さつた方、そんな方に

オススメの一冊を今回は紹
介したいと思ひます。

まず始めに紹介するのは
岡田幹彦著『乃木希典―高
貴なる明治』(Z113)で
す。司馬遼太郎氏が『坂の
上の雲』や『殉死』で描い
ている乃木希典像に対して、
膨大な史料から乃木の人物
や見識なども考慮し、人格
者乃木希典の圧倒的な姿を
描き出しています。福田和
也著『乃木希典』(Z115)
も乃木の盟友兒玉源太郎と
比較し、乃木の人格的特異
性を強調した一冊です。
「Terra de cafe」はいかが

だったでしょうか。精進料
理を洋菓子の視点から紹介
してみましたが、イタリヤ
ンの視点から紹介したのが
笹島保弘著『イタリヤン
精進レシピ』(P103)です。
四季の京野菜に応じてリ
ゾットやパスタ料理を紹介
しています。また和食と見
間違えるほどの上品な盛り
付けも必見です。

「気になる?気になる!」
で紹介しましたお釈迦様の
生涯を知りたい方にオスス
メなのは手塚治虫著『ブツ
ダ』(FO01〜FO12)です。
オリジナルの登場人物こそ
出てきますが、仏典に即し
て楽しく分かり易く描かれ
ており、忠実にお釈迦様の
生涯を追うことができます。
家においてばかりで体がな
まるといふ方は山崎泰廣著
『真言密教阿字観瞑想入門』
(K208)はいかがでしょう
か。真言瞑想法の奥義であ
る阿字観を家で実践して、
この冬も健康に乗り越えら
れること請け合いです。

二文になるぞ、



文になる！

その四、涅槃会と誕生会

しようか。母マヤー夫人がルンビニー園でアシヨールカ樹の花に右手を触れたとき、その右脇から誕生されたのがお釈迦様です。生まれてすぐに四方に向かって七歩めぐり、右手を上にして天を指し、左手は下に大地を指して、「天上天下唯我独尊」（私は世界で最も尊者である）と宣言したのはよく知られた話。日本では四月八日がお釈迦様の誕生日とされました。春になると、水盤の上に安置した小さな誕生仏の像の頭上に柄杓で甘茶を注いだり、甘茶の接待をしているのを見たことはありませんか。当寺では行つていませんが、これが「誕生会」といふ行事であり、各地で灌仏会、仏生会、はなまつりなどの名前で営まれている仏事です。



『地図とあらすじで読むブツダの教え』

高瀬広居 青春出版社

金色の不動明王が円珍さんの前に姿を現してから二年後の承和七年（八四〇）、不動明王は再びその姿を現し、円珍さんに灌頂を授けました。この灌頂とは密教修行によつて仏と同じ位に至ったことを証明する儀式であり、不動明王より直接授かったという伝説からも円珍さんの修行の激しさが伝わってきます。四年後の承和十一年、円珍さんは無事に十二年の籠山修行を終えた円珍さんは南紀大峯山に向かい、かつてこの地で山林修行をしたという役小角に習つて、那智の滝の下で千日間修行をしたと伝えられています。山林修行とは古来より日本に伝わる修行法であり、現在でも「修験道」として大峯山では多くの修行者の姿を見ることが出来ます。承和十三年七月、比叡山の総意で円珍さんを真言学頭に推薦しました。当時の比叡山は空海さんが弘めた真言密教に対して、密教の研究がまだまだ及ばない状況でした。そこで比叡山の僧侶達は仏教に対する理解が深く、他の学問でも通じない所がない円珍さんを真言学頭にして、真言密教を凌ぎたいと考えたのでした。こうして円珍さんは比叡山の真言学頭として、親戚である空海さんの真言密教と相對することになったのでした。（次回に続く）

小僧さんの自習室



その4. 円珍さん③



『智証大師 円珍』 小林隆彰 東方出版

■編集後記

哲済 今号よりYUJは特集ページの充実に伴いページ数も増え、年四回の季刊となりました。

香祥

新しく精進レシピを紹介する「era de cafe」も加わり、より皆さんに使っていただけるYUJとなつてくれればと思います。

哲済

さて、いよいよ平成二十二年。どんな一年にしたい？

香祥

まずは、健康第一。年々衰える体力に歯止めをかけて、のんびりと…ね。

哲済

僕は日々追い込まれるYUJ締め切りに歯止めをかけたらい。

平成二十二年十二月二十八日発行
編集・発行 金倉寺
発行人 村上法照

お問い合わせは

〒七六五-0003

香川県善通寺市金蔵寺町二一六〇

TEL〇八七七一〇八四五

yuj@kagawa-konzouji.or.jp